

幼児におけるサンタクロースの認識： サンタさんって、ご飯を食べるの？

外山紀子

(お茶の水女子大学)

幼児は、サンタクロースをどのような存在として認識しているのだろうか。ここでは、4歳児と5歳児に、サンタクロースの生物学的特性に関する質問（息をする・ご飯を食べるのような）と、社会的特性に関する質問（社会的生活を送る存在としての特性：学校に行く・友だちがいるのような）を行い、その回答と理由を分析した。

方法

対象：4歳児17名（女10名・男7名）と5歳児19名（女9名・男10名）に対する個別インタビュー調査。

質問項目：

➤ 生物学的特性として5つの特性

(1)食：食べ物を食べるか、(2)排泄：おしっこをするか、(3)睡眠：寝るか、(4)呼吸：息をするか、(5)生殖：お母さんから生まれたのか。

➤ 社会的特性として5つの特性

(1)友人：友だちがいるか、(2)読書：本を読むか、(3)家：家があるか、(4)買い物：買い物に行くか、(5)学校：小さい頃、学校にいらしたか。

各特性の有無についてまず質問し、その後、「わからない」という回答以外の回答については、理由を聞いた。

分析方法

➤ 各特性の有無：子どもひとりについて、yesとした特性の数を数えた。

➤ 理由づけ：5つのカテゴリーに分類した。(1)生物学的理由：サンタクロースを生物学的特性をもつ存在として認識した上での理由づけ（寝ないと死んでしまうから、寝ると思う・家がないと凍え死んでしまうから、家があると思う）。(2)サンタのストーリーに基づく理由：クリスマスイヴの夜にプレゼントを配るというストーリーに基づく理由づけ（プレゼントを配るのに忙しいから、寝ないと思う・プレゼントを置いておく場所があるから、家があると思う）。(3)経験に基づく理由づけ（テレビで寝ているところを見たから、寝ると思う・サンタは木の家に住んでいると絵本で読んだから、家があると思う）。(4)その他。(5)なし。

結果

➤ 各特性の有無

各年齢について、ひとりの子どもがyesとした特性の平均数を、生物学的／社会的特性にわけて示した。

	生物学的特性	社会的特性
4歳児(N=17)	1.8(1.4)	1.4(1.0)
5歳児(N=19)	2.6(1.5)	3.0(1.7)

最大値=5.0、()内はS.D.

年齢(2)×特性(2:生物学的／社会的)の分散分析の結果、年齢の主効果が有意であり、 $F(1,34)=7.81$, $p<.01$ 、年齢×特性の交互作用に有意な傾向が認められた、 $F(1,34)=3.87$, $p=.055$ 。

➤ 各特性に対する理由づけ

各年齢について、ひとりの子どもが生物学的理由(Biological)とサンタのストーリーに基づく理由(Story-based)を用いた平均数を、生物学的／社会的特性にわけて示した。

	生物学的特性	社会的特性
4歳児		
Biological	0.35(0.59)	0.18(0.51)
Story-based	0.76(1.06)	1.18(1.25)
5歳児		
Biological	2.21(1.20)	0.63(0.67)
Story-based	0.74(0.71)	1.89(1.48)

()内はS.D.

年齢(2)×特性(2:生物学的／社会的)×理由(2: Biological／Story-based)の分散分析を行った結果、年齢の主効果と、 $F(1,34)=12.67$, $p<.001$ 、特性×理由の交互作用が有意であり、 $F(1,34)=8.03$, $p<.01$ 、年齢×特性×理由の交互作用に有意な傾向が認められた、 $F(1,34)=3.34$, $p=.073$ 。

まとめ

4歳児より5歳児の方が、サンタクロースを生物学的／社会的特性をもつ存在として認識しており、理由についても、生物学的／サンタクロースのストーリーに基づく理由を多くあげた。幼児期後期になると、生物学的知識が、サンタクロースのような対象の吟味に使える知識ベースとして機能するようになることがわかる。